報告２

部長会議付議事案書（報告）

（令和６年８月６日）

提案課名　秦野駅北口にぎわい創造担当

報告者名　上松　太一

事案名	秦野市中心市街地活性化基本計画（案）について	資料 有 ・ 無
提案趣旨	秦野駅北口周辺のにぎわい創造を着実に実行していくため、「中心市街地の活性化に関する法律（平成１０年法律第９２号）」第９条に基づく「中心市街地活性化基本計画（案）」を作成しましたので、報告するものです。	
概要	１　計画策定の背景 秦野駅北口周辺では、中心市街地の人口減少、商業の衰退、空き地、空き家の増加などにより、まちの空洞化と魅力の低下が進み、将来の都市形成上深刻な課題を抱えています。そのため、令和５年度に「秦野駅北口周辺にぎわいのあるまちづくり会議（以下「まちづくり会議」という。）」によって、目指すべき将来の姿を「秦野駅北口周辺まちづくりビジョン」として定め、公表し、共有を図ってきているところです。 中心市街地の活性化に関する法律では、国の認定制度、省庁横断的な支援制度が規定されており、国の認定を受けることで財政支援を受けることができます。 これにより、公民連携のもと、にぎわいに資する事業を実施することが可能であることから、まちづくりビジョンの実行計画として、秦野市中心市街地活性化基本計画（以下「基本計画」という。）を策定するものです。 ２　中心市街地の活性化に関する基本方針、目標、各事業に関する事項等 資料１のとおり ３　計画期間 令和７年度から令和１１年度までの５か年（第１期）	
	令和４年　８月　第１回秦野駅北口にぎわいのあるまちづくり協議会開催 令和５年　１１月　まちづくり会議設立。「秦野駅北口周辺まちづくりビジョン」を策定・公表 令和６年　３月　まちづくり会議開催。基本計画（原案）等について協議 ７月　まちづくり会議を法定協議会に位置付。基本計画（案）等について協議	

経過	（秦野駅北口周辺にぎわい創造プロジェクト推進会議（庁内会議）） 令和５年　４月　第１回会議　計画策定、スケジュール共有 令和６年　２月　第２回会議　実施事業提案、意見交換 令和６年　７月　第３回会議　目標指標、実施事業について意見聴取 （社会実験関係） 令和４年　７月　　オープンスペースを活用したにぎわい創造の社会実験実施 令和５年１１月　　水無川及び市道６号線の公共空間を活用したにぎわい創造の社会実験実施
今後の進め方	令和６年　８月１９日　議員連絡会へ報告 令和６年　８月２０日　市議会議員へ意見募集　１０月１１日提出締切 令和６年　９月　１日　パブリックコメント募集 （広報はだの令和６年９月１日号掲載　１０月　１日提出締切） 令和６年１１月　　まちづくり会議開催、基本計画（最終案）決定 内閣府へ基本計画事前協議提出、関係省庁間調整 令和７年　１月　　内閣府へ基本計画認定申請 令和７年　３月　　内閣総理大臣認定（予定） 令和７年　４月　　認定基本計画に基づき、個別事業を推進

資料１

秦野市中心市街地活性化基本計画（案）について

令和６年８月６日
秦野駅北口にぎわい創造担当　作成

１　策定の趣旨

秦野駅北口周辺は、市の商業の中心として栄えてきた歴史を有しているものの、近年では人口減少及び少子高齢化、商業の衰退のほか、空き地、空き家及び空き店舗が増加し、魅力が薄れ、低密度化、空洞化が進み都市形成上の課題を抱えています。

そのため、地域の核となる交流拠点を創出し、都市機能の強化を図るとともに、地域資源や公共空間を活用し、公民連携により、居心地がよく暮らしやすい魅力ある中心市街地を創出するため、中心市街地活性化基本計画を策定するものです。

２　中心市街地活性化基本計画の位置付け

この計画は、秦野駅北口周辺地区において、上位計画に定める本市の中心都市拠点として目指す地域の姿を実現していくため、中心市街地の活性化に関する法律第９条に基づいた、中心市街地の活性化に関する施策を総合的かつ一体的に推進するための基本的な計画（以下「基本計画」という。）となります。

＜上位計画＞
秦野市総合計画　⇔　秦野市まち・ひと・しごと総合戦略

＜上位計画＞
秦野市都市マスタープラン
秦野市立地適正化計画

○小田急４駅周辺にぎわい創造に向けた中心市街地活性化推進方針
○秦野駅北口周辺まちづくりビジョン

＜関連計画＞
公共施設再配置計画ほか

連携

秦野市中心市街地活性化基本計画

３　目標年次

目標年次は、令和７年度から令和１１年度まで（５か年）とします。施策や個別事業の進捗や熟度に応じ、新たな制度や整備事業を追加・変更していきます。

４　計画の対象区域

秦野駅北口周辺の商業地域及び近隣商業地域を対象にした面積約２５ヘクタールを計画の対象区域とします。

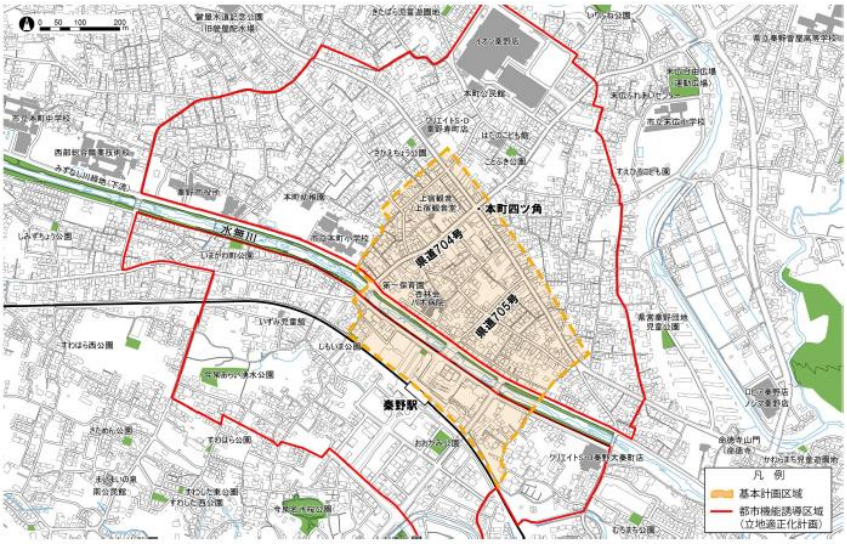


図　計画区域

５　中心市街地の活性化の目標

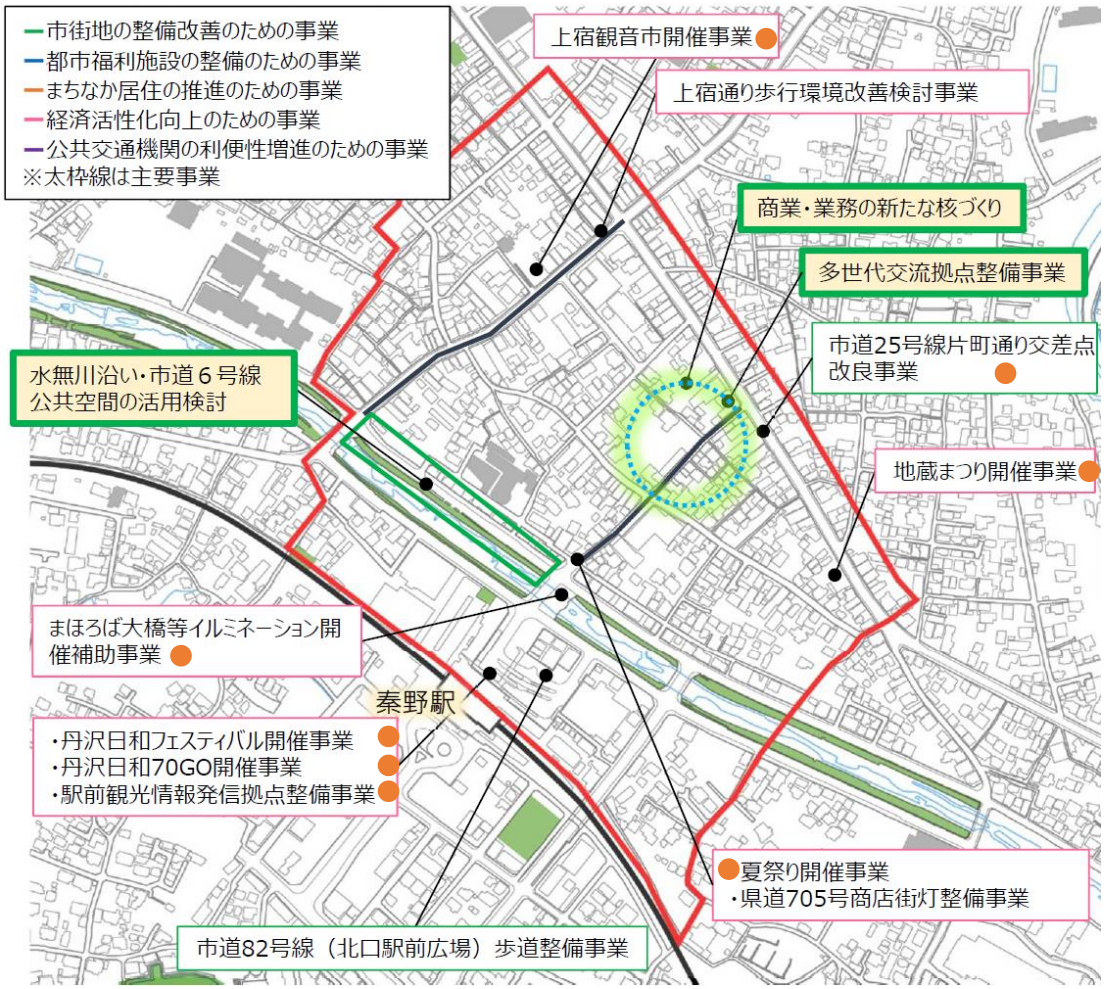
本地区の将来像「名水と歴史がつなげる未来－しなやかなまちなか暮らし－」の実現を目指し、３つの基本方針を掲げます。

また、この基本方針に対応した３つの目標、６つの目標指標を定め、令和１１年度末までに目標達成を目指します。

6　目標達成のための施策

３つの主要事業を含む、約５０種の事業を実施します。

(1)位置が特定できる事業　　● 既存事業



(2)　実施する位置を特定しない事業　　● 既存事業

- ・多世代交流拠点関連事業
- ・多世代交流拠点区画道路整備
- ・低未利用土地権利設定等促進計画策定事業
- ・滞在空間創出快適性向上支援事業
- ・壁面後退用地整備事業●
- ・地区計画策定事業

- ・まちなかこども支援拠点整備事業
- ・まちなか若者活動拠点整備事業
- ・市民活動スペース整備事業
- ・まちなか健康づくり事業
- ・まちなか図書館事業
- ・市民学習講座事業
- ・ギャラリー等の整備事業
- ・観覧・多目的ホール整備事業
- ・まちなか防災機能整備事業
- ・魅力情報発信盤整備事業（施設内外）
- ・秦野名水活用検討事業
- ・公共施設ストックマネジメント事業

- ・民間事業者による商業イベント・研究会事業●
- ・商店街空き店舗対策事業●
- ・商店街販売促進事業●
- ・電子地域通貨関連事業
- ・商業施設建築利子補給金交付事業●
- ・既存商業施設リニューアル整備費補給金交付事業
- ・秦野たばこ祭開催補助事業●
- ・地域の回遊性に資するイベントの実施事業
- ・まちなか開業サポート事業●
- ・登録文化財の維持及び活用支援事業
- ・レトロ空間形成支援事業
- ・デジタル空間形成支援事業
- ・商店街等診断・サポート制度活用事業
- ・中小企業アドバイザー制度活用事業
- ・中心市街地活性化協議会運営支援制度活用事業
- ・まちづくり会社設立支援事業

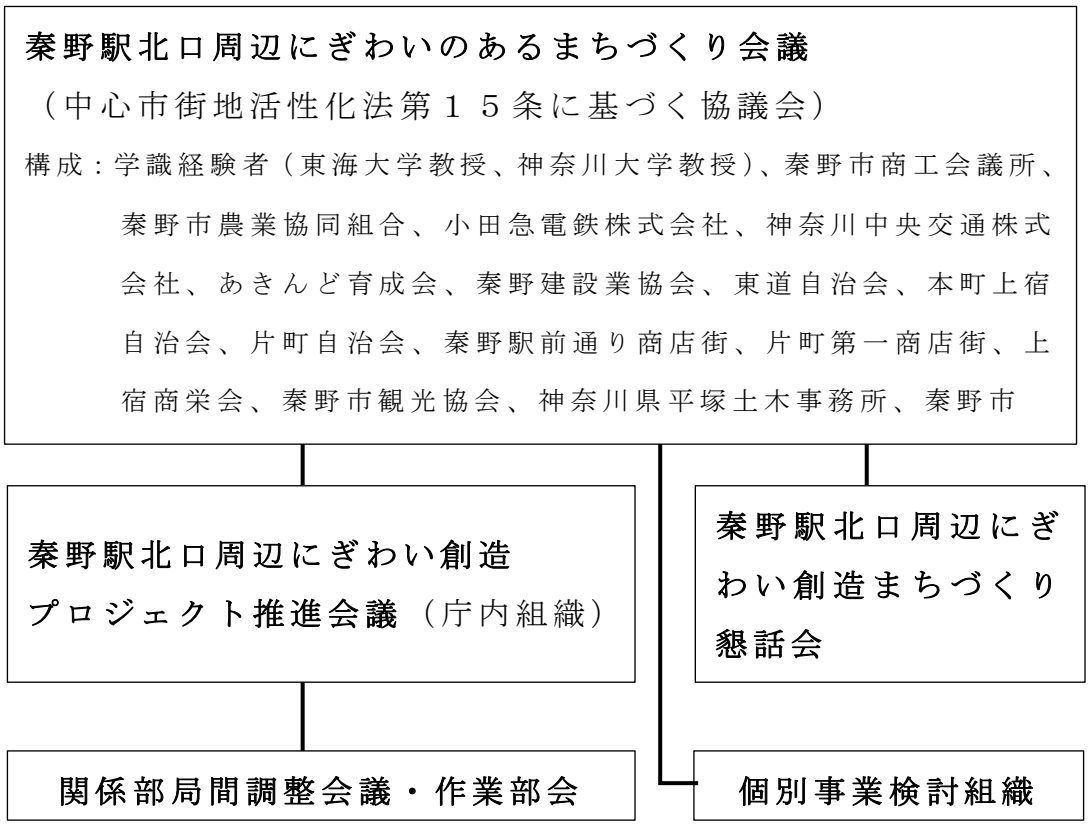
- ・移住・定住促進事業
- ・空き家バンク事業

- ・バス路線検討事業
- ・交通影響調査予測事業

7　計画の策定主体と推進体制について

（1）　計画策定主体：秦野市

（2）　推進体制



資料２

秦野市
中心市街地活性化基本計画（案）

令和６年　月

神奈川県秦野市

目次

○　基本計画の名称 1
○　作成主体 1
○　計画期間 1

１．中心市街地の活性化に関する基本的な方針 1
［１］地域の概況 1
［２］地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析 5
［３］地域住民のニーズ等の把握 ３６
［４］これまでの中心市街地活性化に関する取組 ３９
［５］中心市街地活性化の課題 ４４
［６］中心市街地活性化の方針（基本的方向性） ４５

２．中心市街地の位置及び区域 ４６
［１］位置 ４６
［２］区域 ４７
［３］中心市街地に適合していることの説明 ４８

３．中心市街地の活性化の目標 ５７
［１］中心市街地活性化の目標 ５７
［２］計画期間の考え方 ５８
［３］目標指標の設定の考え方 ５８
［４］フォローアップの方針 ７３

４．土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項 ７４
［１］市街地の整備改善の必要性 ７４
［２］具体的事業の内容 ７４

５．都市福利施設を整備する事業に関する事項 ８０
［１］都市福利施設の整備の必要性 ８０
［２］具体的事業の内容 ８０

６．公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他の住宅の供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業に関する事項 ８７
［１］街なか居住の推進の必要性 ８７

［２］具体的事業の内容 ８７

７．中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業、民間中心市街地商業活性化事業その他の経済活力の向上のための事業及び措置に関する事項 ８９
［１］経済活力の向上の必要性 ８９
［２］具体的事業の内容 ８９

８．４から７までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する公共交通の利用者の利便の増進を図るための事業及び特定事業に関する事項 １０１
［１］公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性..... １０１
［２］具体的事業の内容 １０１
◇４から８までに掲げる事業及び措置の実施個所..... １０３

９．４から８までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項 １０４
［１］市町村の推進体制の整備等 １０４
［２］中心市街地活性化協議会に関する事項 １０４
［３］基本計画に基づく事業及び措置の一体的な推進等 １０５

１０．中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項 １０７
［１］都市機能の集積の促進の考え方..... １０７
［２］都市計画手法の活用 １０７
［３］都市機能の適正立地、既存ストックの有効活用等 １０７
［４］都市機能集積のための事業等 １０８

１１．その他中心市街地の活性化に資する事項
［１］基本計画に掲げる事業などの推進上の留意事項..... １０９
［２］都市計画等との調和 １１０
［３］その他の事項 １１０

１２．認定基準に適合していることの説明 １１２

地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析の小項目

（1）人口動態

① 秦野市及び中心市街地の人口構成・人口推移

② 世帯数推移

③ 人口流動

ア．昼夜間人口　イ．社会増減・自然増減

④ DID 人口密度

⑤ 人口分布

（2）経済活力関係

① 産業全般の状況

ア．秦野市の産業集積状況　イ．全産業の事業所数、従業員数の推移

ウ．産業大分類別事業所数、従業員数の推移

② 卸売・小売業の状況

③ 商店街の立地状況

④ 大規模小売店舗等の立地状況

⑤ 空家・空き店舗の状況

⑥ 観光資源、観光入込数

⑦ 宿泊業の状況

（3）都市機能関係

① 法規制

② 土地利用現況

③ 建物利用状況

④ 建物構造状況

⑤ 中心市街地における主な都市機能の立地状況

⑥ 都市計画公園の状況

⑦ 道路と交通手段の状況

⑧ 鉄道駅の乗降客数

⑨ バス路線の状況

⑩ 道路空間の利用状況

ア．歩行者通行量　イ．滞在者数

⑪ 地価の状況

⑫ 駐車場・空き地の状況

○　基本計画の名称：秦野市中心市街地活性化基本計画
○　作成主体：神奈川県秦野市
○　計画期間：令和７年４月～令和 12 年３月（５年０月）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

［１］地域の概況

（１）秦野市の位置･地勢

秦野市は、神奈川県央の西部に位置し、人口は約 16.2 万人（2020 年国勢調査より）、市域は面積 103.76 ㎢で、東部は伊勢原市、西部は松田町と大井町、南部は中井町と平塚市、北部は山北町、清川村及び厚木市に接している。市の中心部は、東京駅から約 60 ㎞、横浜駅から約 37 ㎞の距離にあり、都心部からのアクセス性に優れているうえ、豊かな自然に囲まれている。

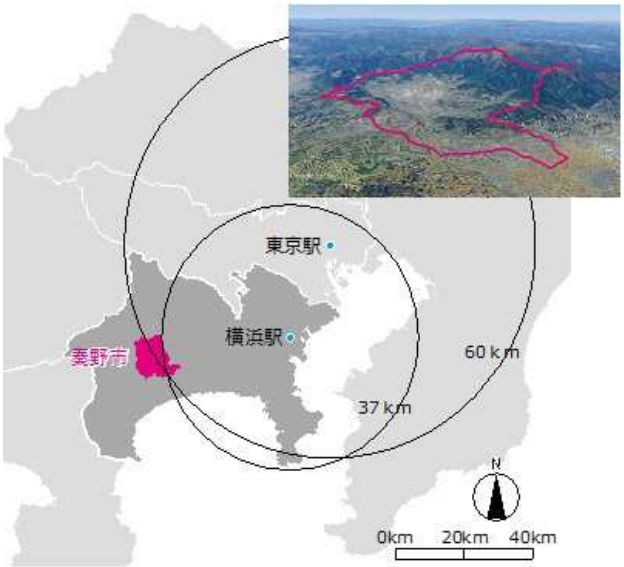


図　秦野市の位置

北方には丹沢連峰がひかえ、南方には渋沢丘陵と呼ばれる台地が東西に走り、県内で唯一の典型的な盆地を形成している。市内を流れる河川の多くは、丹沢連峰の稜線から発しており、なかでも塔ノ岳からの水無川、春嶽山からの金目川は、盆地に入って扇状地地帯を形成し、これが今日の市街地となっている。また、扇状地は、丹沢山地から搬出され堆積した砂礫層と、箱根火山等から飛来した火山灰が互層構造を形成している。

秦野盆地湧水群と弘法の清水

出典：（一社）秦野市観光協会 https://www.kankou-hadano.org/touristguide/water.html

秦野の特産物

出典：秦野市資料

このような地形特性から、秦野盆地は地下水を豊富に蓄えており、その量は約 7.5 億トンと推定される。これらの地下水は盆地内の各所で湧き出し、これが秦野盆地湧水群として、昭和の名水百選の一つに選ばれている。

産業は、農業が盛んであり、水や盆地地形を活かしたお茶、ソバ、落花生などの生産を行っている。また、農地から工業系の産業用地への転換によって自動車や電子部品の生産拠点が市内に点在している。

（２）市町村全体及び中心市街地の沿革（まちの成り立ち）

■秦野のはじまり～大正時代まで

秦野市域では、およそ２万年前から人々の生活が営まれてきた。近世に、矢倉沢往還と羽根尾通り大山道が交わる本町四ツ角を中心に、市場（十日市場）が開かれ、幹線道路が交差する交通の要所として、経済の中核を担うようになった。

江戸時代に起こった富士山大噴火を転機に、火山灰の土地で育ちやすいタバコの生産が始まる。育てたタバコをタバコ葉として加工し、地区内で生産から販売までを一貫して行っていた。現在のイオン秦野店の敷地に「秦野葉煙草専売所（後の JT 秦野工場）」が整備され、専売所に隣接して「湘南馬車鉄道（後の湘南軽便鉄道）」の（旧）秦野駅が開設された。

日本専売公社秦野たばこ試験場における葉タバコの地干し

出典：秦野市資料

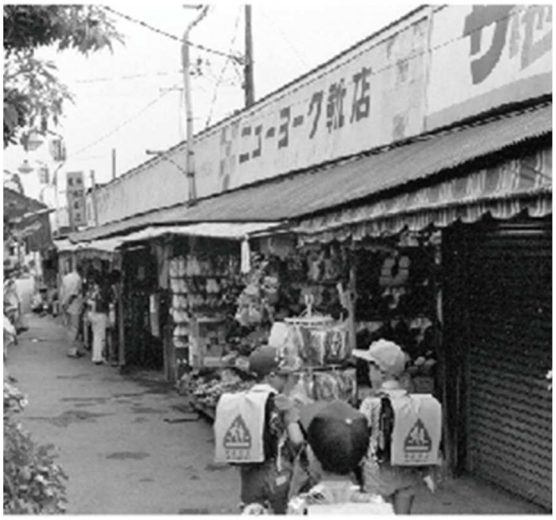
■昭和～現在まで

昭和の時代に入ると、小田急線の開通により、大秦野駅（現在の秦野駅）が開業し、交通の中心が本町四ツ角から南側の駅付近に移った。第二次世界大戦後、水無川沿いにサクラマーケットという市場ができた。サクラマーケットには、日常雑貨店や駄菓子屋などが立ち並び、1981（昭和 56）年頃まで賑わった。

その後、産業の変化により、タバコ畑から工業用地へと土地利用転換が進んだことから、住宅需要が生まれ、あわせて中規模なスーパーマーケットなどが建ち始めた。

昭和 60 年代以降には、衣料品などの買い回り品を便利に調達できる商業施設がないことから、市の主導で複合商業施設を誘致する「シビックマート構想」が提唱されたものの、近傍への大型商業店舗の出店や社会状況の変化の影響を受け、事業が白紙撤回され、現在に至る。

サクラマーケットの様子



出典：秦野駅北口周辺まちづくりビジョン（令和 5 年 11 月）

■秦野市中心市街地の移り変わり

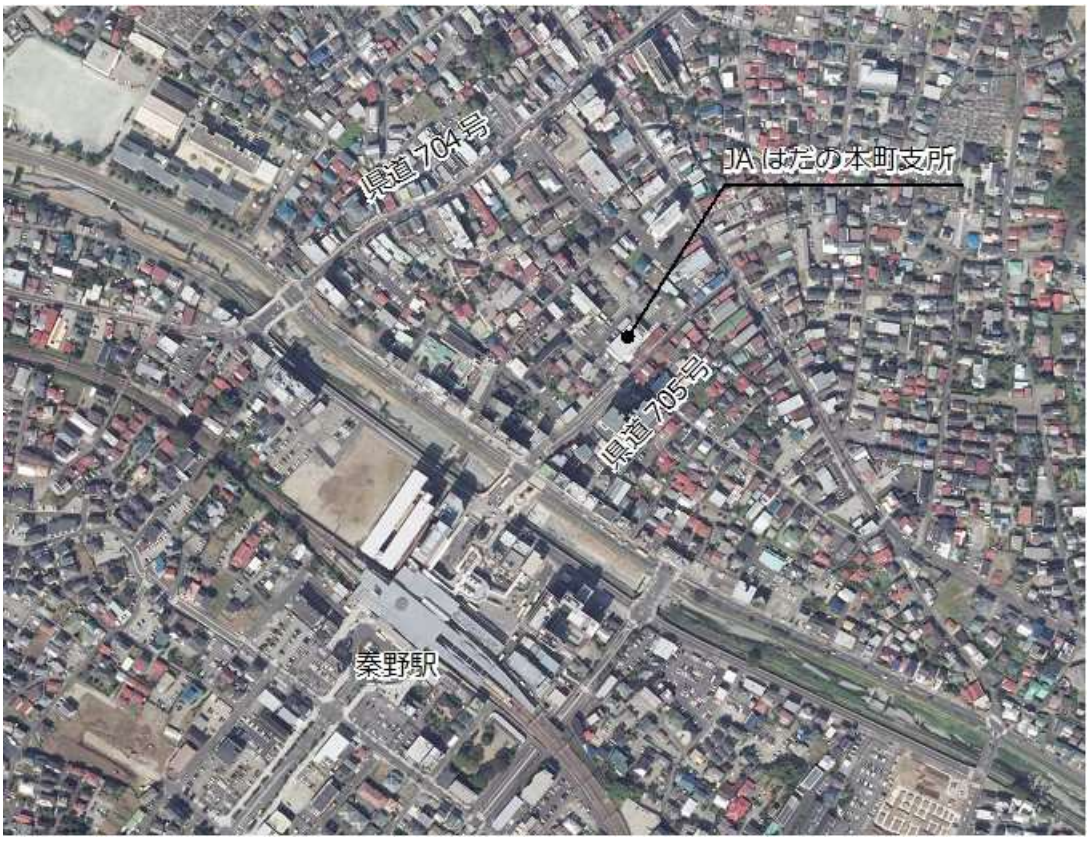
秦野市の中心市街地は前述した通り、歴史的にはタバコ産業を背景とした経済の中核的な役割を果たしていた。その後、1988（昭和 63）年頃になると、駅西側に建つ西武ビル（ボウリング場）一帯以外は、戸建て住宅を主体とした市街地となり、2007（平成 19）年には、駅南側の土地区画整理事業が完了し、秦野駅が橋上化され、北口周辺の市街地にも、中高層の建物が目立つようになる。その後、駅側の県道 705 号の拡幅が始まり、西武ビルが解体されたほか、駅前ショッピングセンターが複合機能の区分所有マンションに建替えられ、JA はだの本町支所が建替えられた。

2019（令和元）年になると、西武ビル跡地にはドラッグストアや分譲マンションが開発された。

1988(昭和63)年

2007(平成19)年

2019(令和元)年



出典：国土地理院

（３）秦野市における中心市街地の歴史的・文化的役割

近世より本町四ツ角周辺には市場（十日市場）が開かれ、江戸時代以降は、市域の特産品であるタバコが東海道の脇往還である矢倉沢往還などを通して流通するなど、経済の中核として発展してきた。その後、1955（昭和 30）年の市制施行を機に工場誘致が図られると、タバコ葉などを生産する農地から工業用地へと土地利用の転換が進むとともに、住宅需要が生まれ、中心市街地においても日常生活に必要な小売店舗が立ち並ぶようになり、市の商業の中心として栄えてきた。

駅前通り商店街の様子

［２］地域の現状に関する統計的なデータの把握･分析

（１）人口動態

① 秦野市及び中心市街地の人口構成･人口推移

秦野市の総人口は、2020(令和 2)年時点で 162,439 人となっており、2010(平成 22)年の 170,145 人を境に減少に転じており、この 10 年間で 7,706 人減少（－4.5%）している。

中心市街地（秦野駅北口周辺）の人口も同様に、2010(平成 22）年の 1,721 人から減少傾向にあり、2020（令和 2）年には 1,479 人へと 242 人も減少（－14.0%）している。

人口構成については、市全体及び中心市街地ともに、年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）の減少が続いている。老年人口（65 歳以上）は年々増加し、2020 年には市全体及び中心市街地ともに 30%を超えている。

それぞれを比較すると、市全体よりも中心市街地の人口減少率の割合が高く、高齢化率も高いことから、より高齢化が進んでいる状況である。

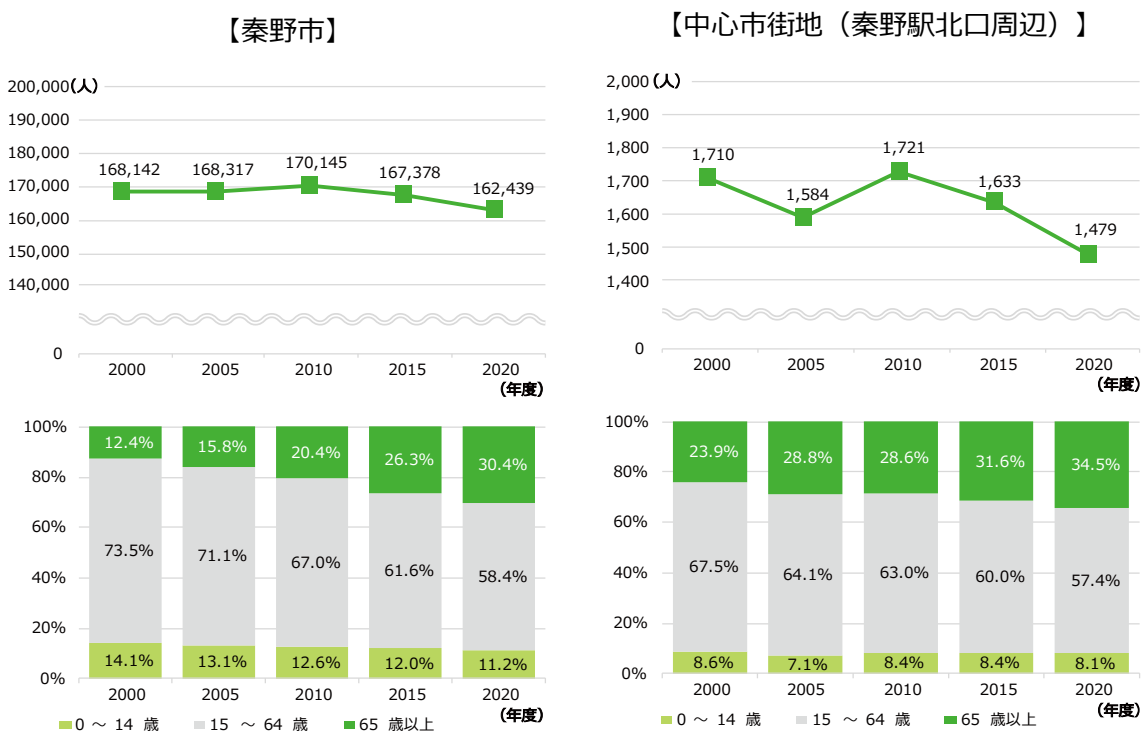


図　秦野市の人口推移・人口構成

出典：秦野駅北口周辺まちづくりビジョン（令和 5 年 11 月）

② 世帯数推移

秦野市の世帯数は、1965(昭和 40)年に約 1.2 万世帯であったが、その後、急速な増加傾向が続き、平成の時代に入ると 5 万世帯を超え、2020(令和 2)年時点で 72,737 世帯となっている。

中心市街地においては、2005(平成 17)年から 2015(平成 27)年にかけては 685 世帯から 810 世帯まで増加したが、近年は減少に転じ、2020 年には 772 世帯となっている。

また、1 世帯当たりの人員は、市全体、中心市街地ともに減少傾向にあるが、中心市街地の 1 世帯当たりの人員は市全体に比べ低く、2020 年には 1.92 人／世帯となっており、核家族や単身世帯が多い地域と考えられる。

※中心市街地において 2005 年から 2010（平成 22）年にかけて人口と世帯数が急増しているが、これは県道 705 号沿道に立地する民間マンション（総戸数 91 戸）の竣工による。

図　秦野市の総世帯数・1 世帯あたり人員の推移

出典：秦野市人口ビジョン（平成 28 年 3 月（令和 3 年 3 月改定））

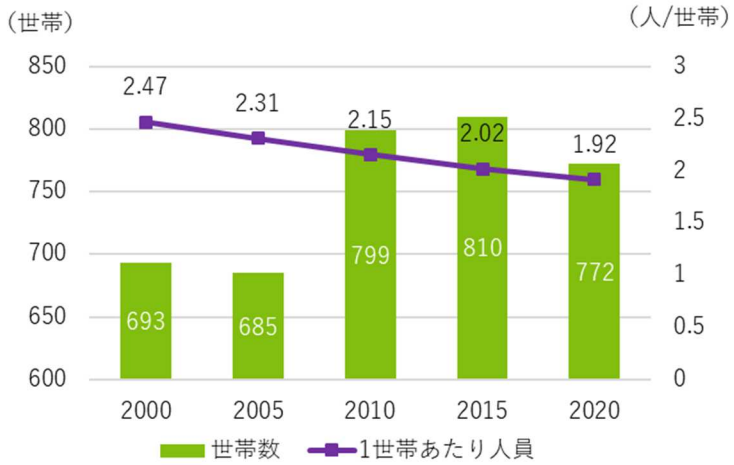


図　中心市街地の総世帯数・1 世帯あたり人員の推移

出典：国勢調査

③ 人口流動

ア．昼夜間人口

秦野市全体の昼間人口は、2000(平成 12)年以降増加が続き、約 14 万人から約 14.5 万人まで増加したが、2020(令和 2)年には減少に転じ、約 14.2 万人となっている。

昼夜間人口比率については上昇が続いており、2000(平成 12)年からの 20 年間で 5.6 ポイント上昇し、2020(令和 2)年には 87.7％となっているが、依然として 100％以内であり、流出超過が続いている。

令和 2 年国勢調査によると、通勤・通学では東京都へ向かう人が最も多く、次いで厚木市、平塚市の順となっている。

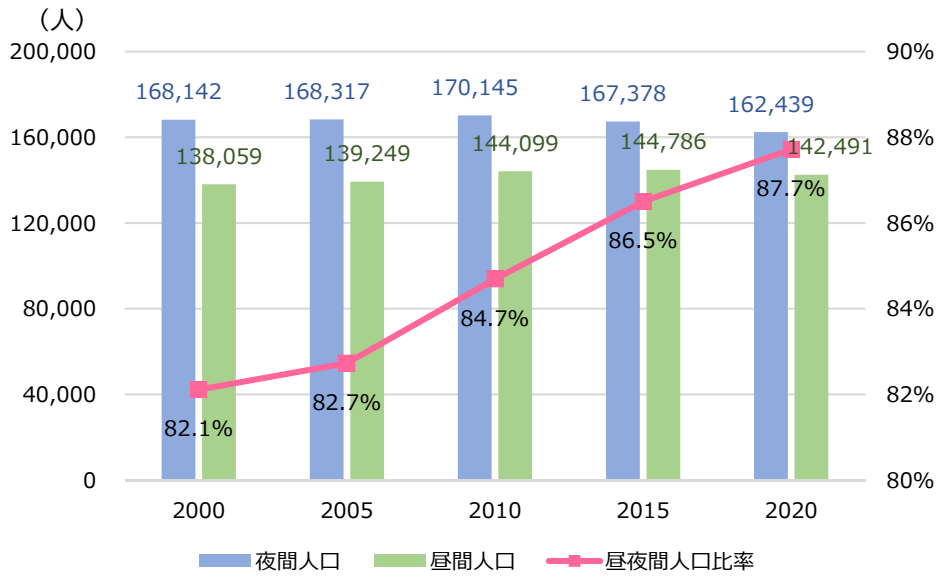


図　秦野市の昼夜間人口・昼夜間人口比率

出典：RESAS（国勢調査）

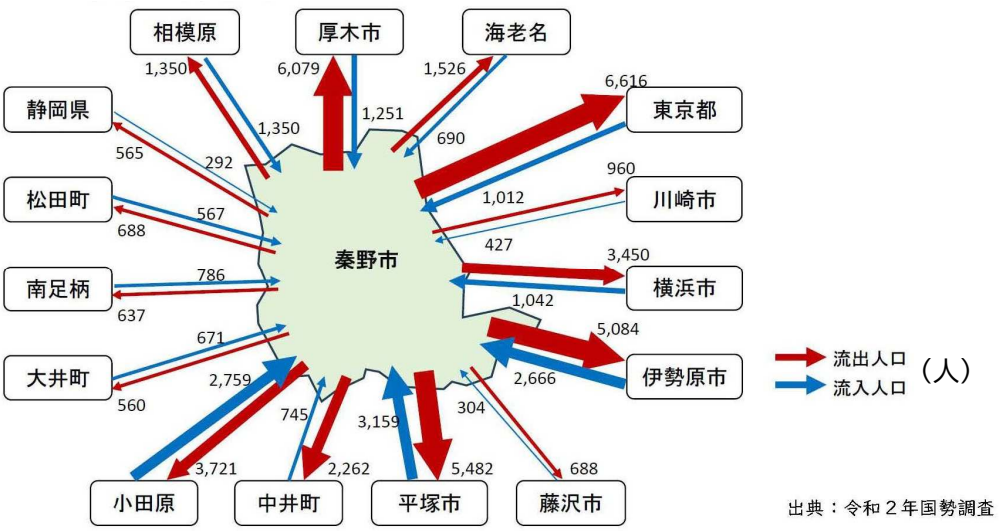


図　秦野市の通勤・通学流動人口（2020(令和元)年）

出典：秦野市地域公共交通計画（令和 6 年 3 月）

イ．社会増減･自然増減

2010(平成 22)年頃までは出生数が死亡数を上回っていたが、その後死亡数が出生数を上回り、出生数は減少が続いている。2021(令和 3)年の死亡数は出生数の約 2 倍となった。

社会増減については、2000(平成 12)年頃から減少の傾向が強まっているが、近年は転出入の変動が比較的穏やかになっており、2021(令和 3)年には転入が転出を 411 人上回った。

転出入の市町村別の内訳をみると、転入先・転出先ともに横浜市が最も多く、約 10%を占める。2 位以下は、伊勢原市、平塚市、川崎市、相模原市の順となっている。

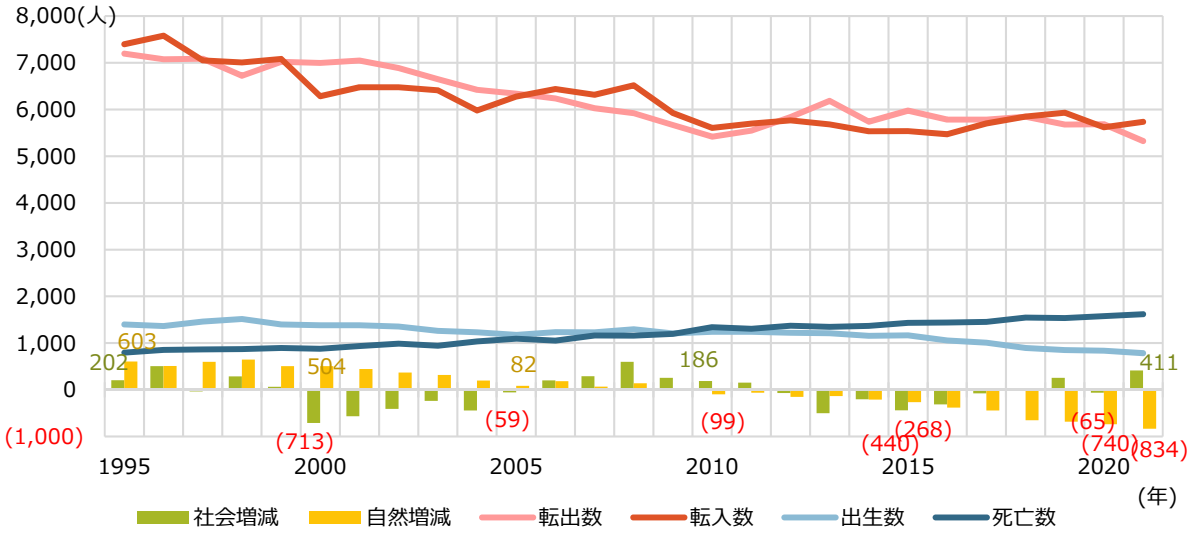


図　秦野市の社会増減数・自然増減数の推移

出典：RESAS（住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査）

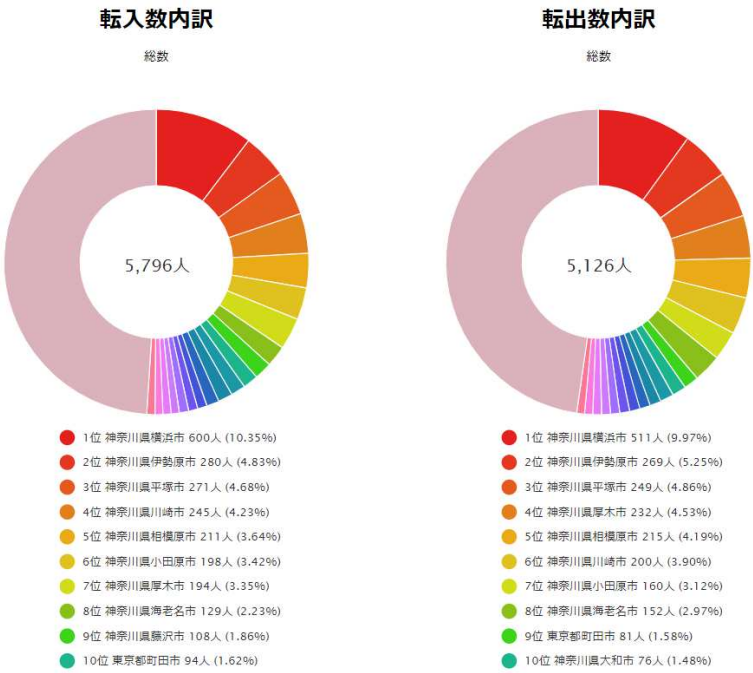


図　秦野市の転出入の市町村別内訳（2022 年）

出典：RESAS（総務省「住民基本台帳人口移動報告」）

④ DID 人口密度

秦野市の DID（人口集中地区）は、1965 (昭和 40)年頃は秦野駅を中心に広がっていた。その後、渋沢駅、東海大学前駅、鶴巻温泉駅の 3 駅周辺、市街化区域北側等の順で拡大し、2020(令和 2)年には約 2,316ha となり、1985(昭和 60)年の約 1.7 倍まで広がった。

その一方で、DID 人口密度は減少傾向にあり、1985 年の 71.8 人から、2020(令和 2)年には 62.3 人へと 9.5 人も減少（約-13%）し、市街地の低密度化が進行している。

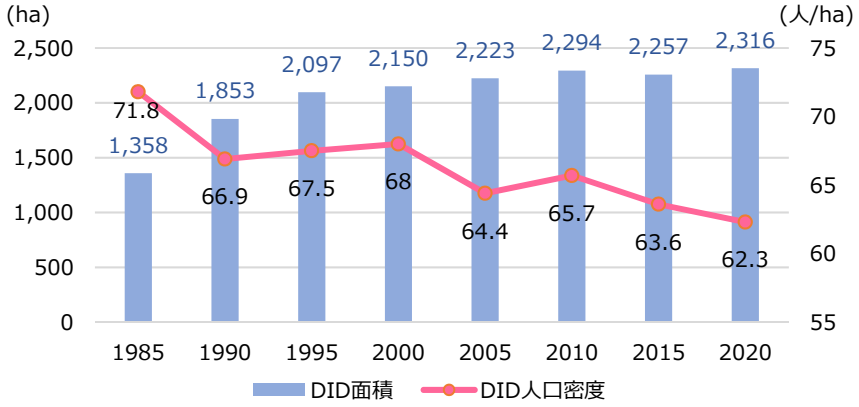


図　秦野市の DID 面積と DID 人口密度の推移

出典：統計はだの

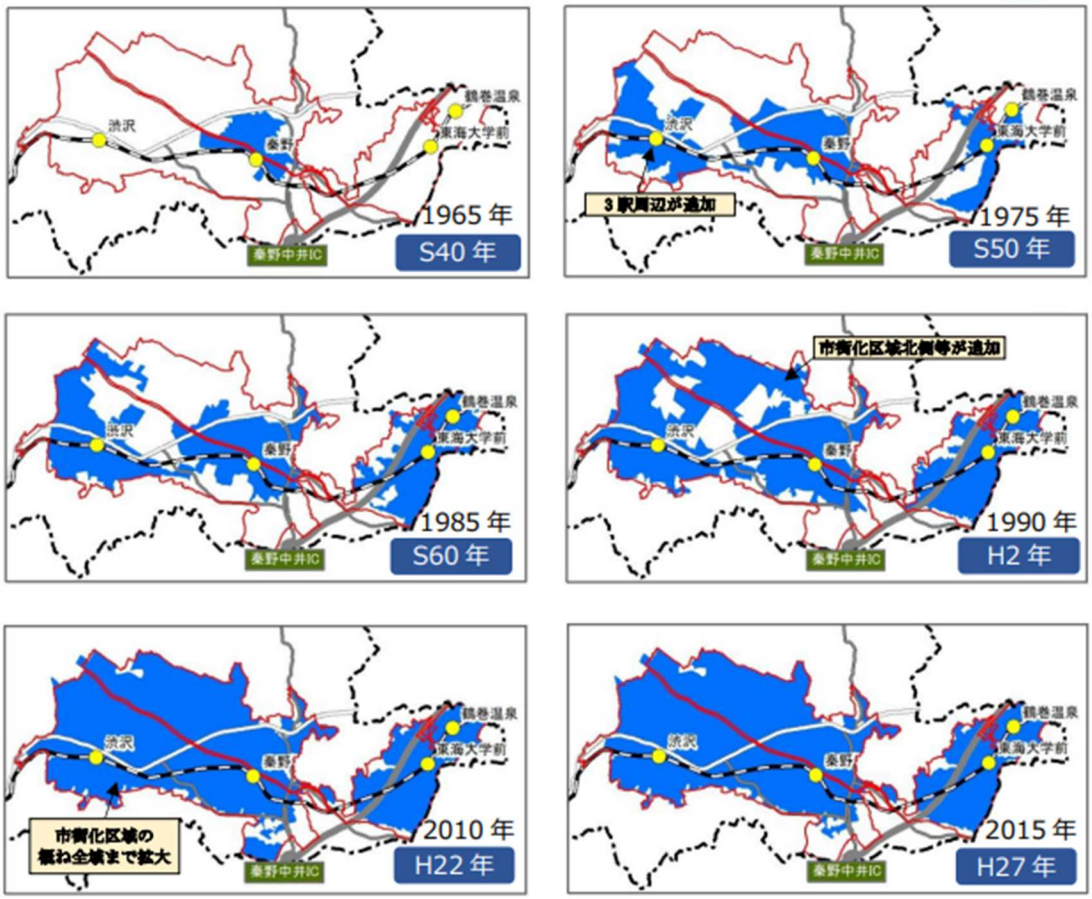


図　秦野市の DID の変遷

出典：秦野市立地適正化計画（令和 2 年 4 月）

⑤ 人口分布

秦野駅周辺の人口分布をみると、駅南側では人口が増加しているエリアがいくつか見られるが、駅北側の中心市街地周辺では多くのエリアで人口が減少している。

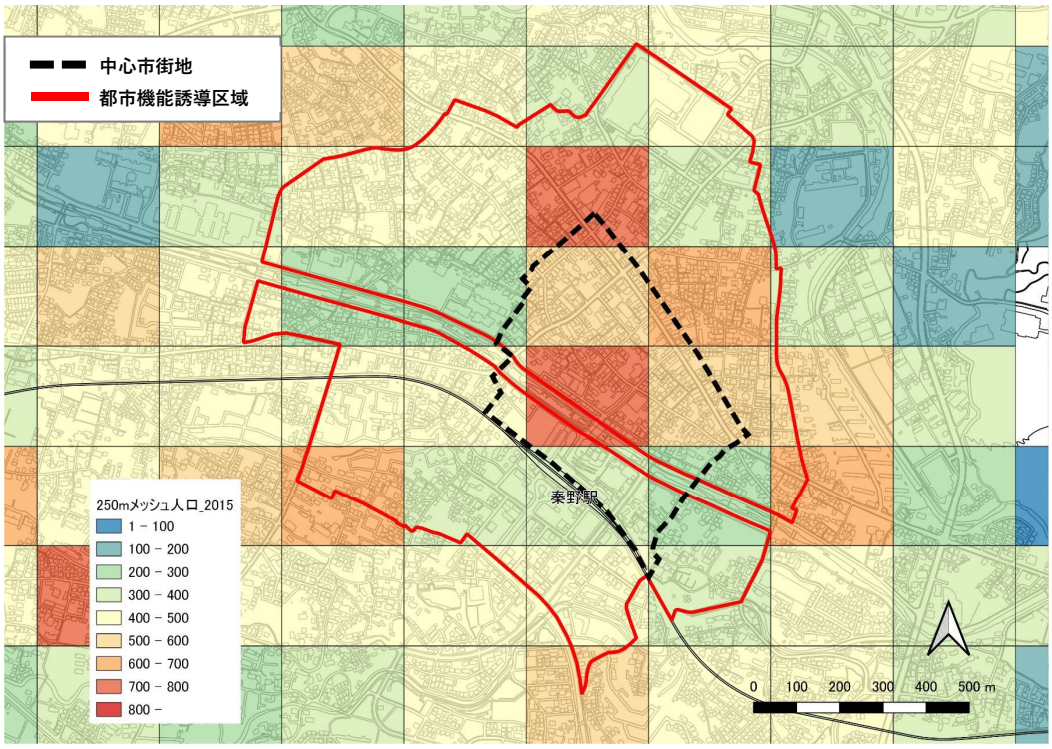


図　中心市街地の 250ｍメッシュ人口（2015(平成 27)年）

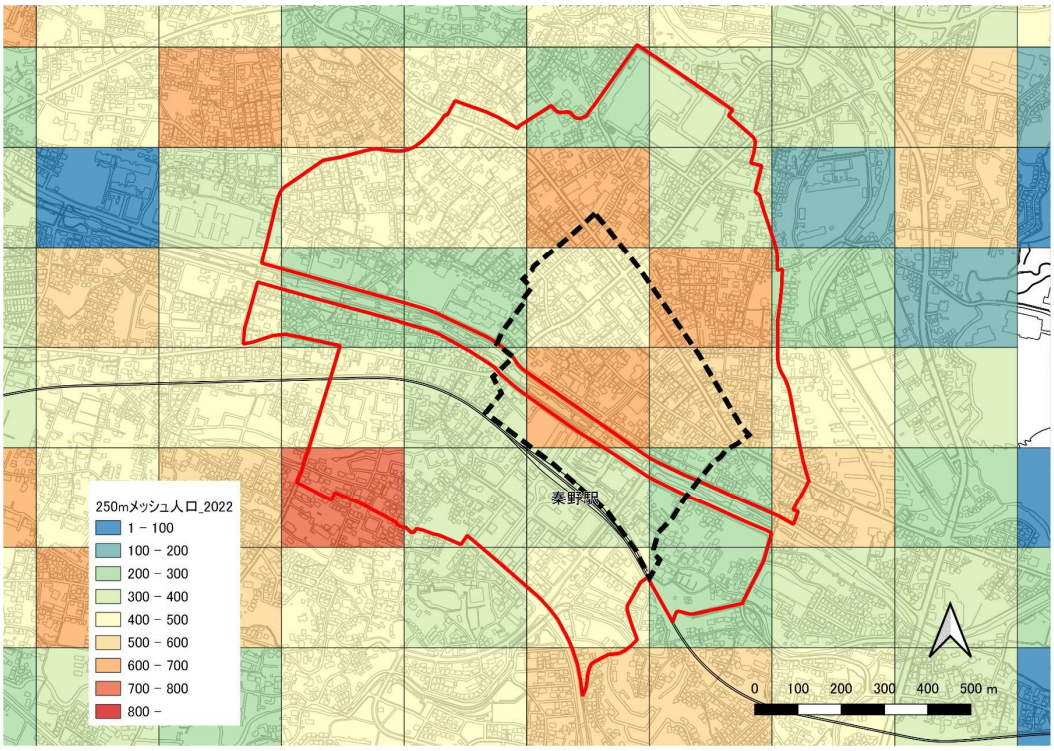


図　中心市街地の 250ｍメッシュ人口（2022(令和 4)年）

（２）経済活力関係

①　産業全般の状況

ア．秦野市の産業集積状況

秦野市における全産業（うち公務を除く）の事業所は、小田急 4 駅周辺に多く分布している。特に秦野駅北口周辺で 250 件以上となっており、もっとも立地数が多い。

従業者数については、小田急 4 駅周辺及び市中心部の工業地周辺に多く分布している。

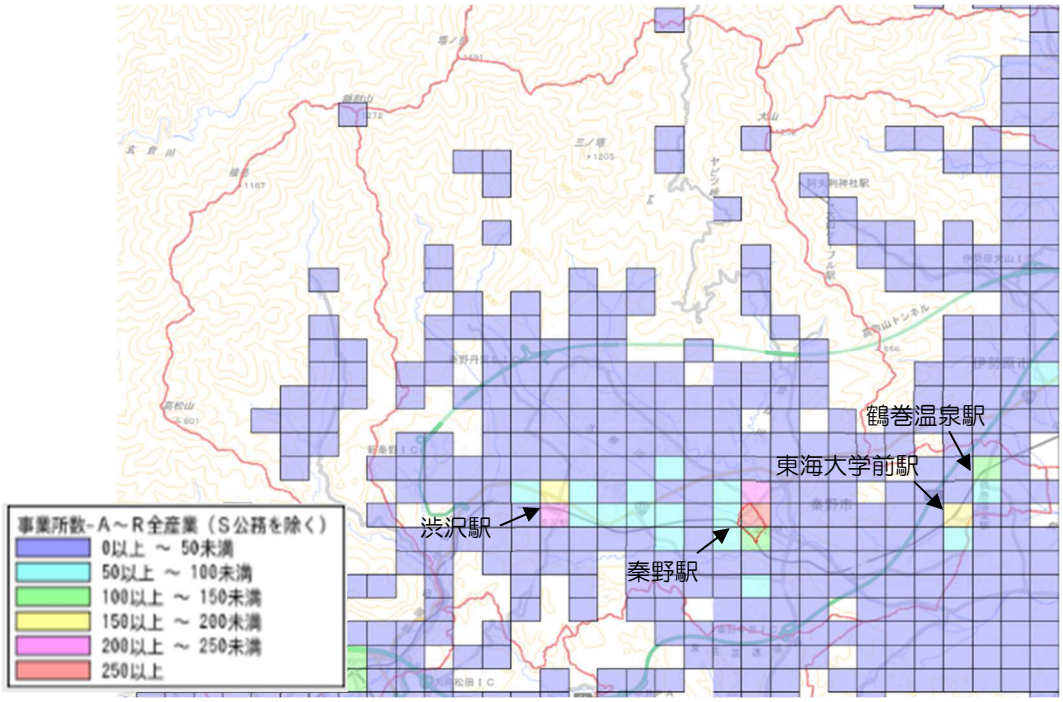


図　秦野市の事業所数の分布（2016(平成 28)年）

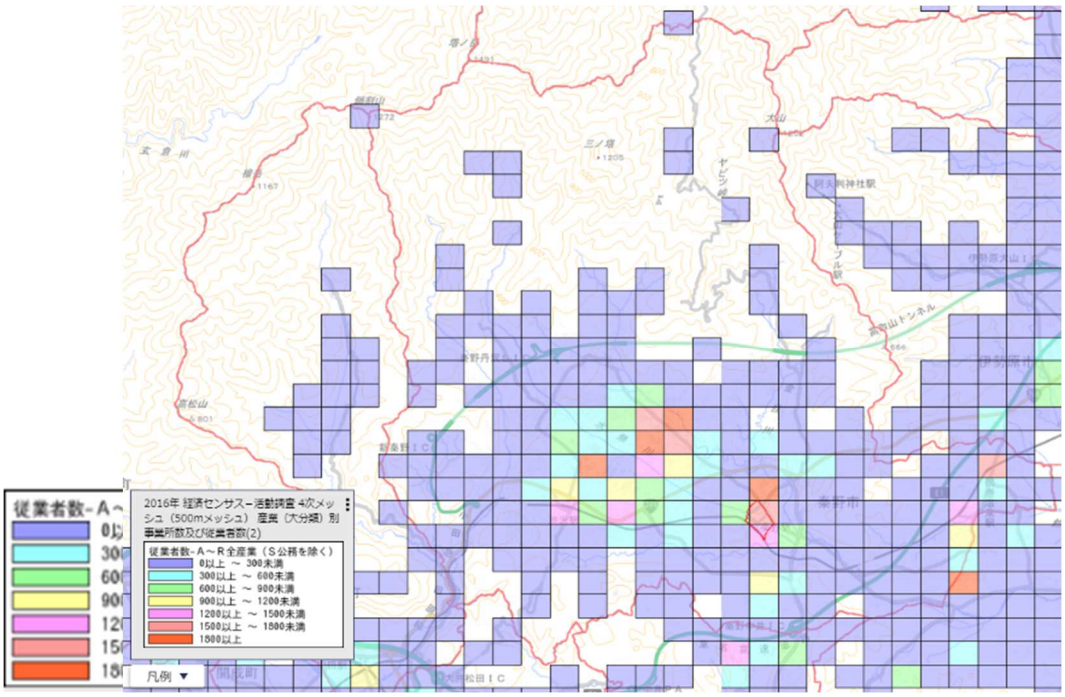


図　秦野市の従業員数の分布（2016(平成 28)年）

出典：j-STAT MAP(平成 28 年経済センサス活動調査)

イ．全産業の事業所数、従業員数

市全体の事業所数は、2016(平成 28)年で 4,609 事業所あり、そのうち中心市街地には 392 事業所が立地しており、市全体の約 8.5%を占める。

事業所数の年次変化をみると、市全体の事業所数は 2012(平成 24)年から 2014(平成 26)年まで若干増加したものの、基本的には減少傾向にあり、2009(平成 21)年から 7 年間で 688 件減少した。従業員数についても同様の傾向にある。

中心市街地の事業所数については 2009 年から減少が続き、2016 年までに 71 件減少した。

中心市街地の従業員数は市全体の約 6%前後を占め、2012 年から 2016 年にかけては横ばいとなっている。

（中心市街地：今川町、栄町、大秦町、本町 1 丁目、本町 2 丁目の合計）

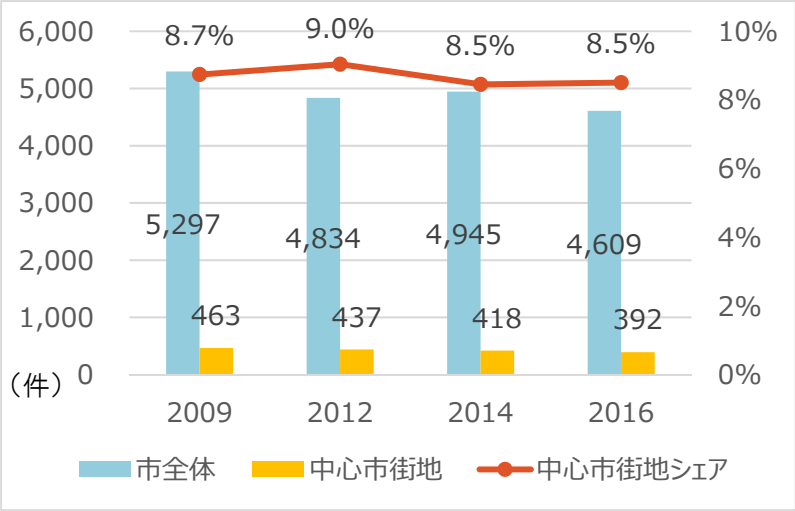


図　全産業の事業所数（公務のぞく）の推移

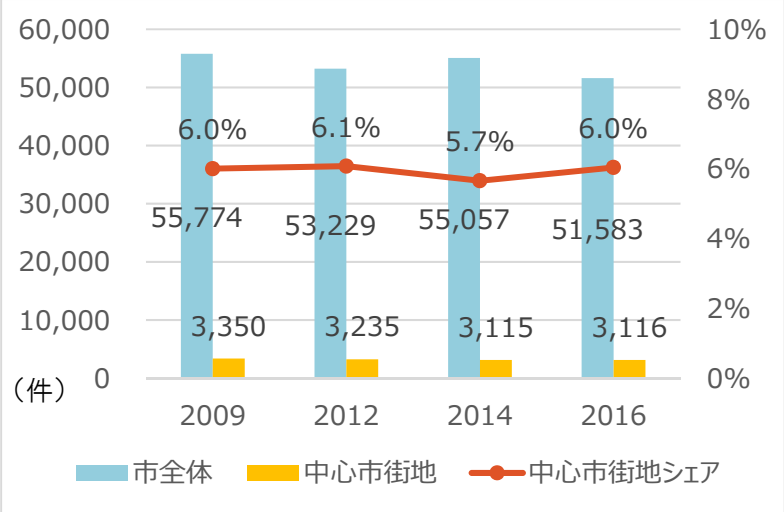


図　全産業従業員数（公務のぞく）の推移

出典：経済センサス基礎調査・活動調査

ウ．産業大分類別事業所数、従業員数

中心市街地で最も多くの事業所が立地している産業は「卸売業、小売業(129 件)」で、「宿泊業、飲食サービス業(65 件)」「生活関連サービス(47 件)」と続く。市全体の事業所数に対して占める割合は「金融業、保険業(9 件、16.7%)」「情報通信業(2 件、16.0%)」が高い。

中心市街地の従業員数については、「卸売業、小売業(710 人)」が最も多く「宿泊業、飲食サービス業(601 人)」「医療、福祉(511 人)」と続く。市全体に対して占める割合は「金融業、保険業（177 人、22.7%）」「教育、学習支援（205 人、21.5%）」が高い。

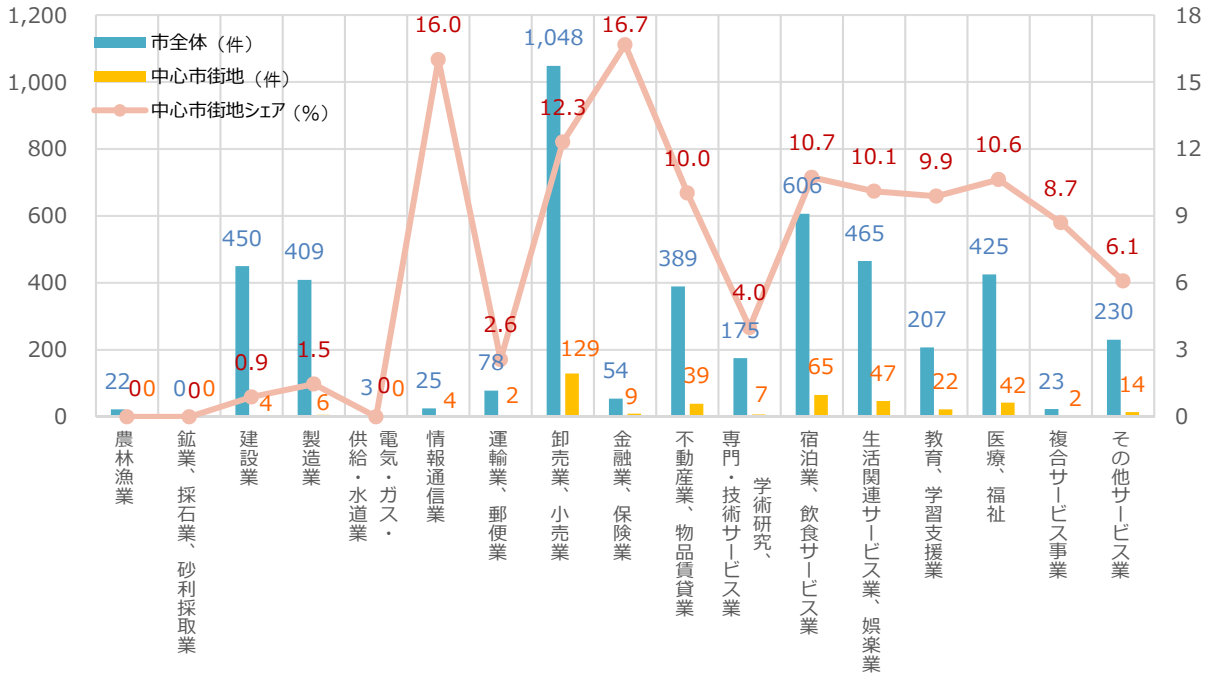


図　産業大分類別事業所数（2016(平成 28)年）

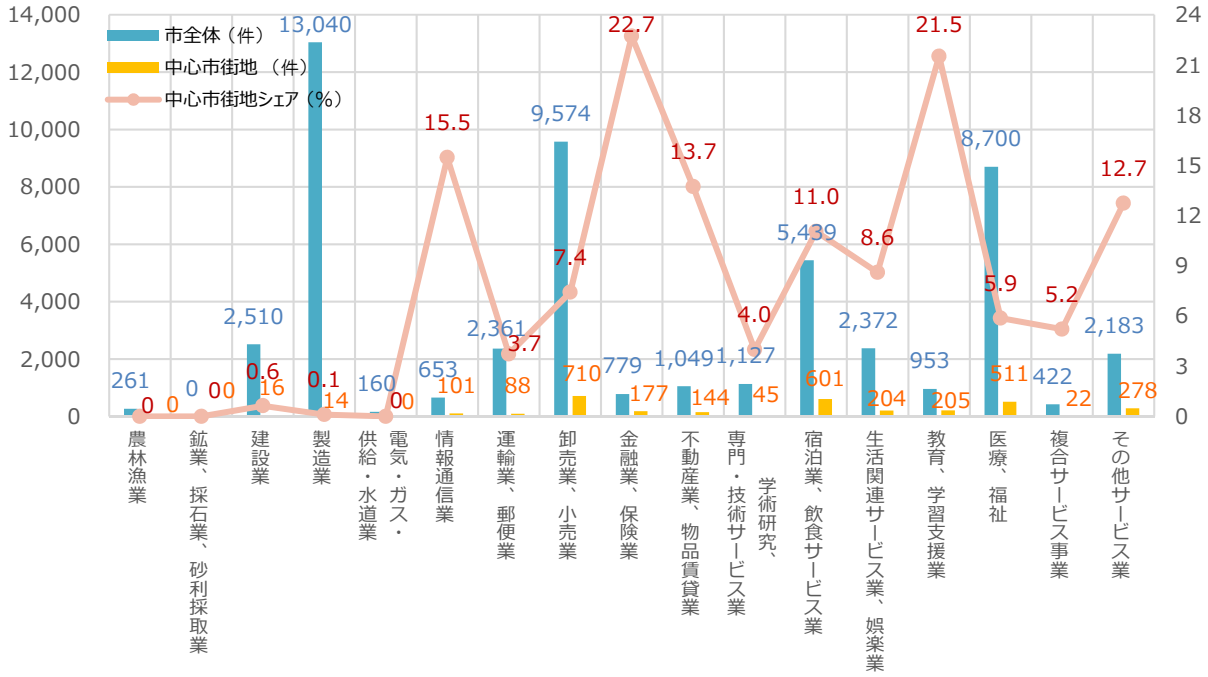


図　産業大分類別従業員数（2016(平成 28)年）

出典：経済センサス基礎調査・活動調査

② 卸売･小売業の状況

卸売・小売業の事業所数は、市全体及び中心市街地において年々減少傾向にあり、2016(平成 28)年までの 7 年間で、市全体では 192 件減少（－15％）、中心市街地では 37 件減少（－22％）となった。

従業員数については、市全体では 2012(平成 24)年から 2014(平成 26)年にかけてやや増加したが、2016 年までの 7 年間で 1,135 人減少（－11％）した。中心市街地も減少傾向にあり、173 人減少（－20％）となった。

市全体に対して中心市街地が占める割合についても、事業所数、従業員数ともに減少が続いている。

図　卸売・小売業の事務所数の推移

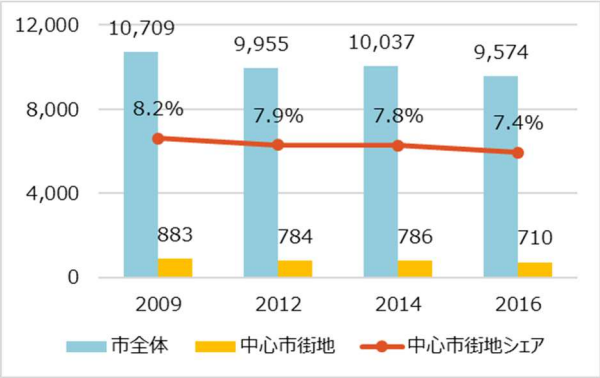


図　卸売・小売業の従業員数の推移

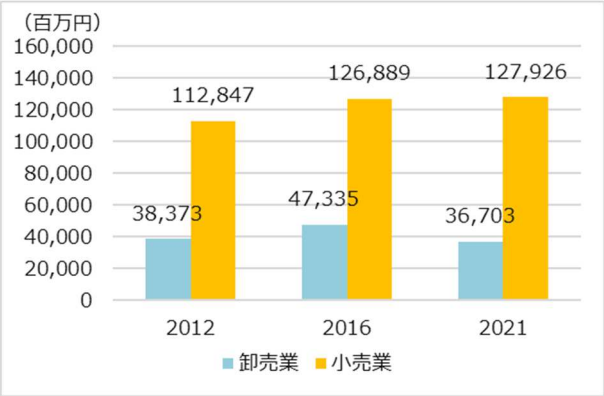


図　卸売・小売業の年間販売額(市全体)

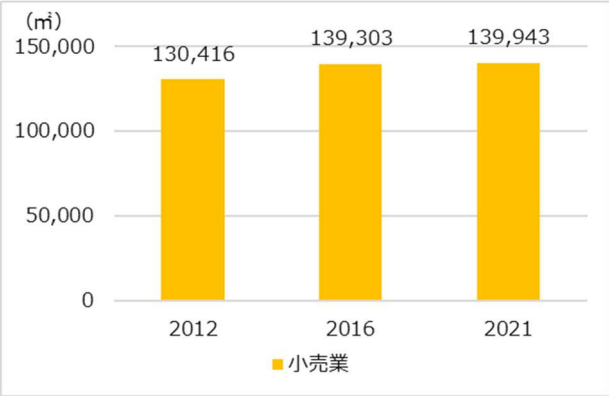


図　小売業の売り場面積

出典：経済センサス基礎調査・活動調査

③ 商店街の立地状況

秦野駅北口周辺には複数の商店街が形成され、対象区域内の商店街団体は、「上宿商栄会」「秦野駅前通り商店街」「仲宿商店会」「片町第一商店街」「花みずき通り商店会」の５つがある。古くからの中心的な商業地として市民等の生活を支えてきたが、近年は空き店舗が増加している。

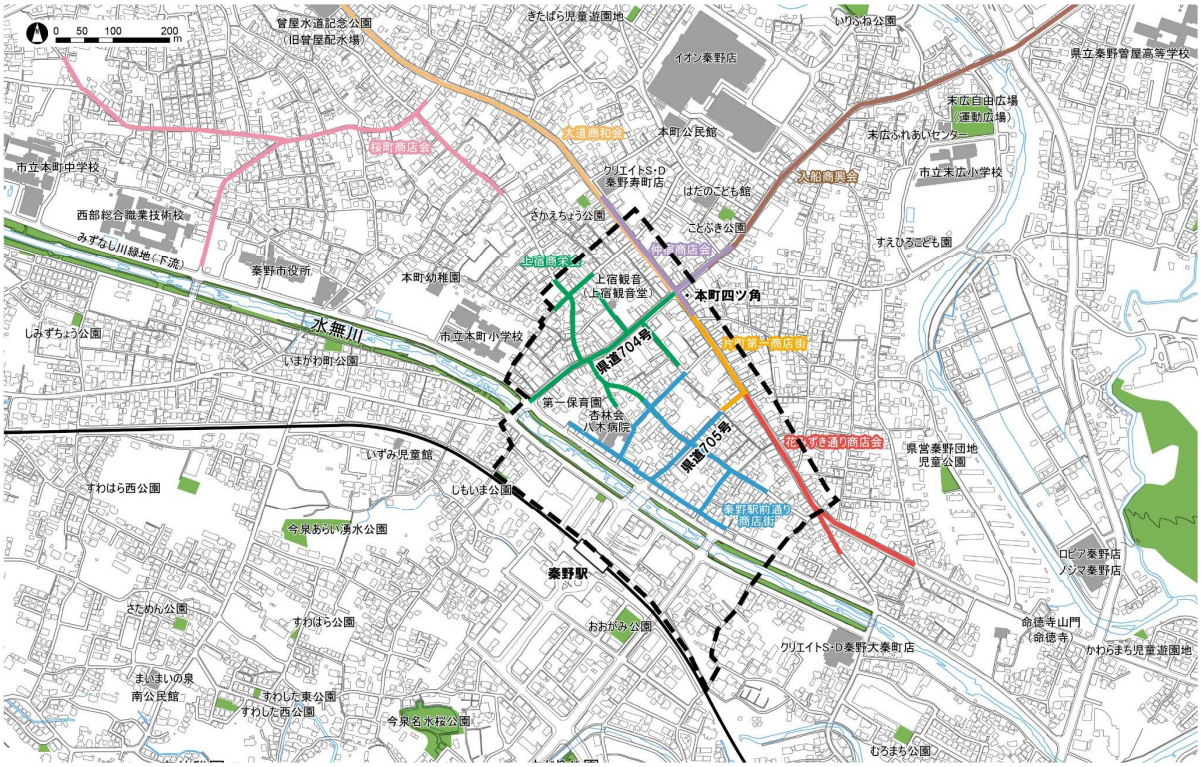


図　秦野駅北口周辺の商店街の位置

1971（昭和 46）年の秦野駅前通り商店街

現在の様子

④ 大規模小売店舗等の立地状況

中心市街地内には大型小売店は立地しないが、駅から 800ｍの位置に市内で最も売り場面積の大きい「イオン秦野店」が立地する。その他、薬局やスーパーは駅徒歩圏内に立地するが、大型の複合商業施設が市内にないため、買い回り品などの購入には平塚や海老名など、近隣都市のショッピングモールに赴く傾向がある。

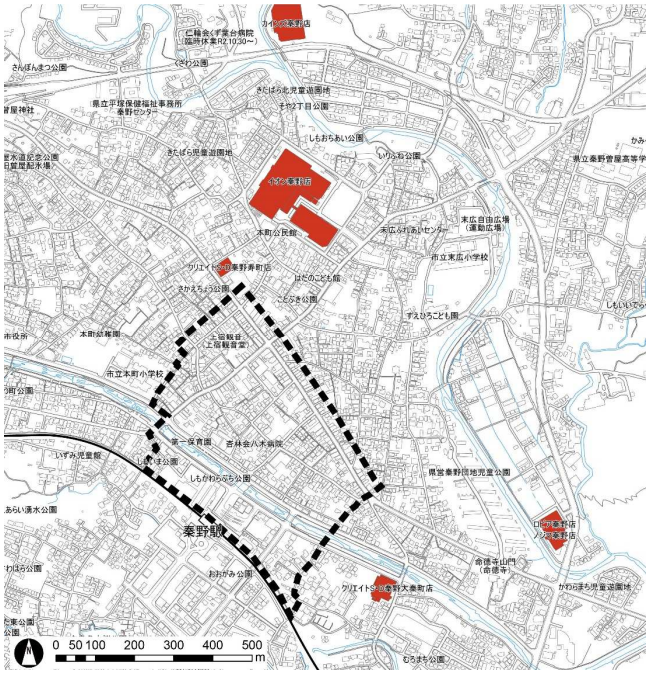


図　秦野駅周辺の小売店舗の立地状況

図　近隣の大規模商業施設の位置

表　秦野市内の大規模小売店舗一覧

	店舗名	業態	店舗面積（㎡）	開店日
10,000㎡以上	イオン秦野店	ショッピングセンター	29,967	1995.11
5,000 ㎡ 以 上 10,000以下	カインズ秦野店	ホームセンター	7,765	1999.7
	フォルテ秦野	食品スーパー	6,899	2020.9
	ノジマ秦野店	専門店	6,237	1997.11
3,000 ㎡ 以 上 5,000㎡以下	ニトリ秦野店	専門店	4,996	1997.10
	ヤオコー秦野店	食品スーパー	4,547	2014.6
	ケーヨーデイツー秦野店	ホームセンター	4,500	2000.11
	ロピア渋沢店	食品スーパー	4,459	1978.4
	マックスバリュ秦野店	食品スーパー	3,646	1996.6
	MEGA ドン・キホーテ秦野店	総合スーパー	3,029	2019.4
	三和フードワン鶴巻町	食品スーパー	3,012	1991.6
1,000 ㎡ 以 上 3,000㎡以下	ヤマダテックランド秦野店	専門店	2,998	2000.3
	DCM 渋沢店	ホームセンター	2,521	1998.10
	ビーバートザン秦野店	ホームセンター	2,044	1997.4
	小田原百貨店渋沢店	食品スーパー	1,811	1989.9
	ユーコープミアクチーナ秦野曽屋店	食品スーパー	1,659	2010.10
	ヨークフーズ西大竹店	食品スーパー	1,653	1997.4
	ヨークフーズ秦野緑町店	食品スーパー	1,630	2010.11
	クリエイト・エスディー秦野大秦町店	専門店	1,431	2020.3
	ファッションセンターしまむら堀川店	専門店	1,207	2002.11
	COMBOX246秦野	専門店	1,126	1987.3

出典：全国大型小売店総覧 2023

⑤ 空き家・空き店舗の状況

秦野駅周辺の本町地区及び南地区には 344 軒の空き家が点在している。特に本町地区では、208 軒の空き家が存在する。また、県道 704 号沿いと片町通りを中心に空き店舗等が多くみられる。

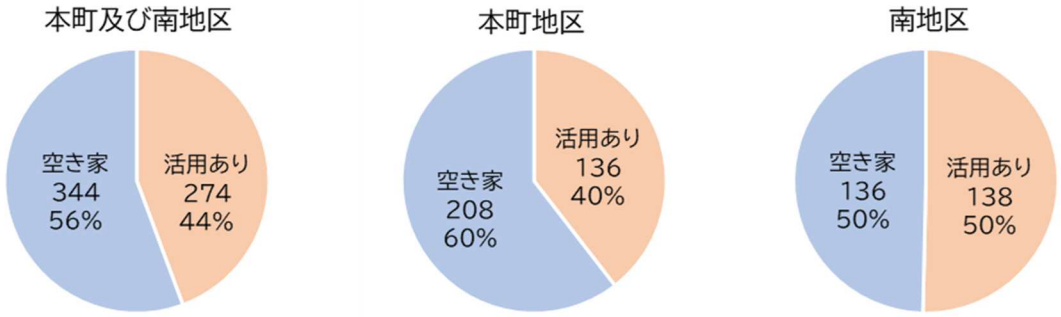


図　空き家軒数

出典：空き家実態調査（令和元年 5 月）

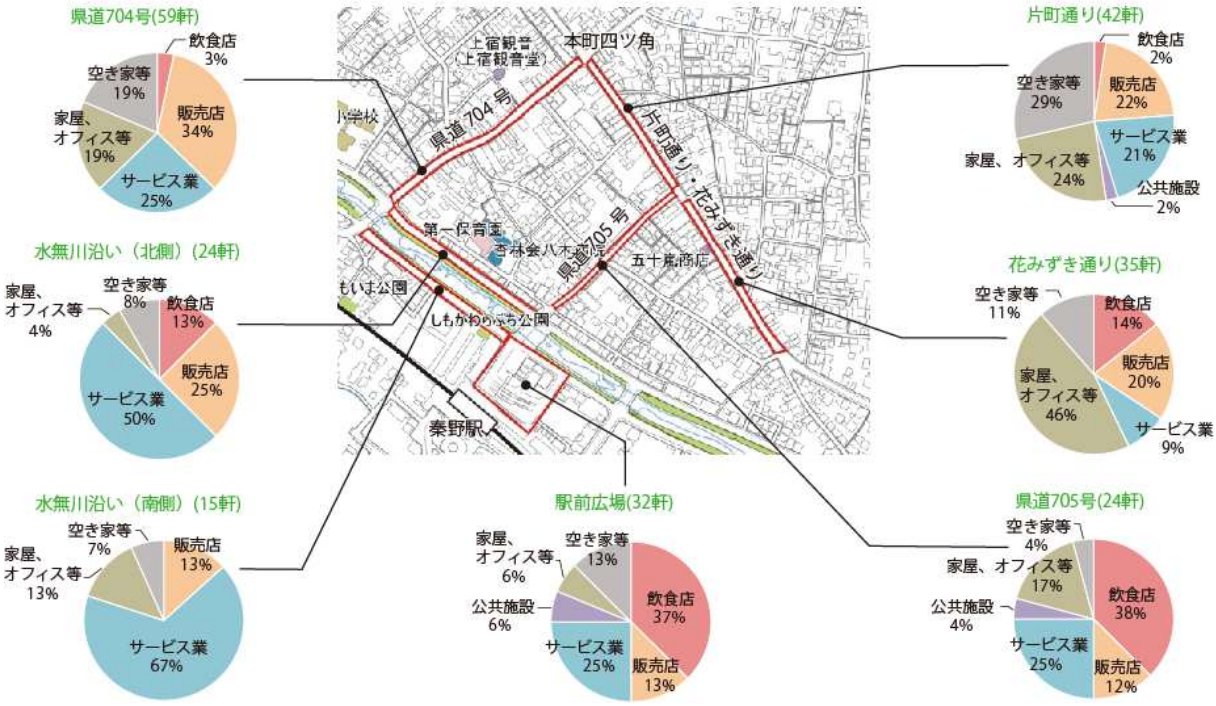


図　主要な通りの沿道建物の状況

出典：秦野駅北口周辺まちづくりビジョン（令和 5 年 11 月）

⑥ 観光資源、観光入込数

秦野市の北部には、表丹沢や県立秦野戸川公園、表丹沢野外活動センター等の自然を活かしたアクティビティやキャンプの出来る観光資源が多く立地している。このため、秦野駅北口周辺は市民だけでなく、観光スポットに訪れる人々の拠点となっており、休日には登山客等の来街者が訪れる。

特に、秦野駅北口周辺で毎年 9 月に開催される「秦野たばこ祭」は、30 万人以上の観光客の動員を誇る。

表丹沢

秦野たばこ祭

県立秦野戸川公園

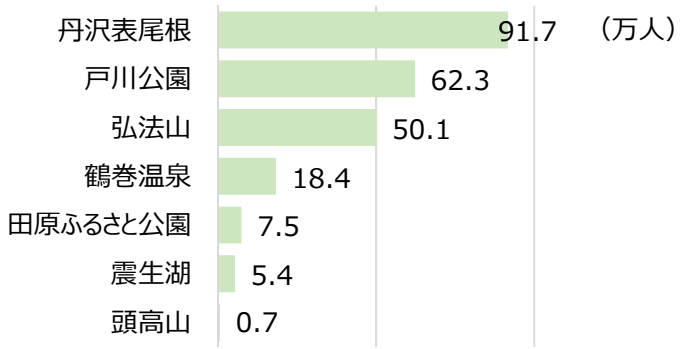


図　秦野市内の観光拠点の年間観光客数（2023(令和 5)年）

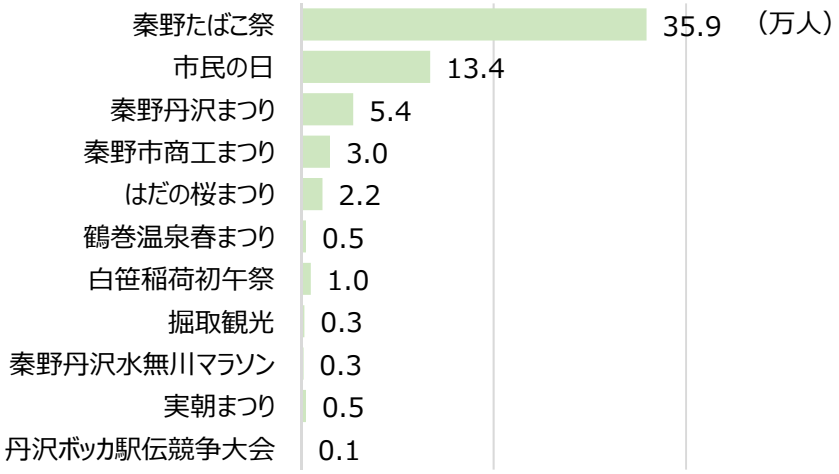


図　まつり・イベントごとの観光客数（2023(令和 5)年）

出典：秦野駅北口周辺まちづくりビジョン（令和 5 年 11 月）

⑦ 宿泊業の状況

中心市街地内の宿泊施設は「グランドホテル神奈中・秦野（部屋数：102、1990(平成 2)年オープン）」の一か所のみとなっている。

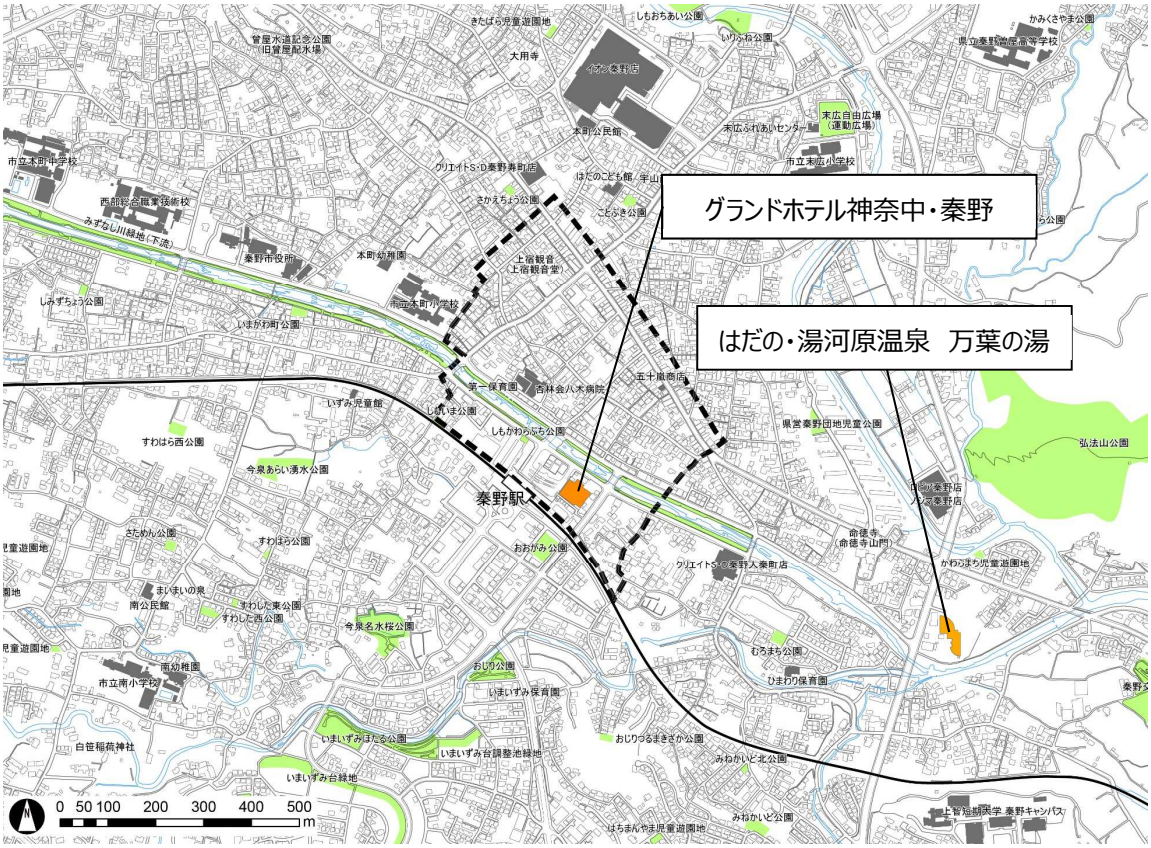


図　秦野駅周辺の宿泊施設